



宮城県中学校長会

会 報

平成28年度 宮城県中学校長会 第67回総会開催される

総 会 概 略

5月23日、新会員23名を含め総勢137名が一堂に会し、第67回宮城県中学校長会総会・研修会がホテル白萩を会場として開催されました。星 豪会長が全日中宮城大会の成功をあいさつの中で祈念し、続いて、宮城県教育委員会教育長の代理で教職員課千葉清人小中学校人事専門監からご祝辞をいただきました。

今回退職された23名のうち出席2名に感謝状と記念品を贈呈後、代表あいさつとして、前副会長の湯目隆之先生から「校長会のネットワークで、良き情報交換ができました。」との感謝の言葉を頂戴しました。新会員紹介、全日中校長会員章(バッジ)の贈呈の後、石越中学校平塚貢校長が「身の引き締まる思いです。」と決意を表明しました。

続いて、前年度と今年度の事業及び会計、宣言文について承認され、全員で宣言・決議文を力強く読み上げました。午後は研修会として、教育庁各課・室から教育行政について説明が行われた後、今年度10月に開催される全日本中学校長会研究協議会宮城大会の吉川隆行運営委員長から、大会運営要項を基にこれまでの経緯、大会運営の概要について説明がありました。閉会は、参加者全員が決起集会の思いを込めて声高らかにエールを発声し、総会が締めくくられました。



あいさつ

宮城県中学校長会
会 長
星 豪

昨年度に引き続き、会長を仰せつかりました。大崎市立古川中学校の星でございます。よろしくお願いたします。

平成28年度がスタートして、2ヶ月が経過しようとしております。昨日は県内で今年の最高気温を記録し、多くの地点で夏日となるなど季節は一気に初夏の色合いを強くしてまいりました。各学校では中体連地区大会に向けていよいよ力が入ってきているものと思います。子どもたちが躍動し学校が最も活気づく頃ではないかと思ひます。

本日、公務ご多用の中、宮城県教育庁教職員課小中学校人事専門監 千葉清人様はじめ、多数のご来賓の皆様、関係機関の方々、歴代の校長会長の大先輩の皆様方のご臨席を賜り、平成28年度第67回宮城県中学校長会総会を開催できますこと、会員一同、心より感謝申し上げますとともに、大きな喜びとするところであります。

この3月をもちましてご勇退されました23名の校長先生方におかれましては、長年にわたり宮

城の教育の振興のためにご尽力をいただきました。これまでの本会へのご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。今後のさらなるご活躍を祈念いたしますとともに、校長会に対する温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、この度中学校長としてご昇任された23名の新会員をお迎えいたしました。いよいよ校長としての指導力を発揮するときとなりました。学校教育への熱い思いを教職員にしっかりと伝え、理想の学校づくりに存分に力を発揮して下さい。また、本会のさらなる充実にもお力を発揮していただきますようよろしくお願いいたします。

さて、先般発生した平成28年熊本地震で被災された皆様には心からお見舞いを申し上げます。また、共にお亡くなられた方々にはご冥福を申し上げます。未曾有の被害を出した東日本大震災から五年、まだその傷が癒えない中、先日の熊本地震が発生し甚大な被害をもたらしました。改めて自然災害の驚異を身に染みて感じるとともに、防災への備えと、防災教育の大切さを思い知らされました。

本県中学校長会としまして、熊本県の中学校長会に対しまして、義援金を贈らせていただきたいと考え、各地区をお願いしたとことであります。早速ご協力いただき有りがとうございます。全日中の動きとしては、今週行われます理事会で示されるものと思います。そちらの情報もわかり次第お伝えしてまいりたいと思います。

さて、昨今のめまぐるしい社会情勢の変化や、教育改革進展の中で、中学校教育においても変化に対応した新たな取り組みが求められています。確かな学力の向上はもとより、いじめや不登校などの問題、防災教育の推進、さらには様々な危機管理への対応など喫緊の教育課題が山積しております。

また、家庭や地域社会との連携を一層強化し、生徒の学習や生活の基盤づくり、規範意識の育成、体力の向上など、健やかな心身の育成が学校教育に求められています。さらに本県に於いては、地方公務員法の改正に伴う新しい教職員評価の試行や学校事務の共同実施など、大きな変革の年でも

あります。

先日、馳浩文部科学大臣が「教育の強靱化に向けて」と題したメッセージを発信しました。子どもたちの未来のために、「次世代の学校」を創生し、教育の強靱化を必ず実現するとの決意を述べたものであります。AI（人工知能）の進化など情報化・グローバル化が急激に進展する不透明な時代を、たくましく、しなやかに生きていく人材を育てるためには、学校教育を進化させて行くことが必要とし、「学習指導要領の改訂」と「次世代の学校・地域創生の実現」の一体的な推進に向け今後取り組んでいく重点事項を掲げています。日本の教育への熱い期待と改革への意気込みを感じたところであります。

「学校からの教育改革」を目指す全日中ではこのような昨今の教育情勢を踏まえて、この度、全日中教育ビジョンの二回目の改訂を行いました。この教育ビジョンのルーツは、さかのぼること6年前、平成21年の第60回全日中福島大会で提示・公表されたものであります。

未来社会を担う人材である子どもたちに、社会を生き抜く力を確実に育成するために、校長として明確なビジョンを持ち、リーダーシップを発揮して、積極的に教育改革に取り組んでいかなければなりません。刻々と変化していく教育情勢の中で、私たち校長は常に学校経営上の判断に迫られます。どの選択が正しいか決断に迷うことが多々あります。その時の考えの基軸となるのが全日中教育ビジョンであり、校長として変化していく周囲の状況にしなやかに対応していく指針となるものであります。

それぞれの学校現場で円滑に、且つ適切に教育活動が実施されるように、私たち校長は学校の最高責任者として、自らの明確な改革ビジョンと教育改善に向けた強い意志を持ち、家庭や地域と一体となりながら、「学校教育の推進」「教育諸条件の向上」等にも努めていかなければなりません。

さらに、校長には危機管理意識や緊急対応力も強く求められ、一層、教育行政機関との緊密な連携が必要であります。生徒や保護者、地域の方々から信頼される学校であり続けるため、校長を中

心に教職員が一丸となった学校経営ができるように、条件整備に努めていきたいと考えています。

今年一年、地区校長会、理事会を中心に意見を集約させ、連携をとって教育課題の解決と宮城県の教育の充実に向けて全力で取り組んでまいりますので、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。さて、本年度の宮城県中学校長会の最大の達成目標は全日中宮城大会の成功に尽きるかと思えます。10月の全国中学校長会研究協議会宮城大会まで残すところ五ヶ月を残すばかりとなりました。先週はこの仙台でG7財務大臣、中央銀行総裁会議が開催されました。仙台駅をはじめ、華やかな歓迎・おもてなしのイベントで賑わいました。「私たちは明日世界を迎えます。」と新聞の全面広告にありましたが、あと5ヶ月後には、私たちが全国を迎える番だと認識を新たにしました次第です。

本県137名の全会員が一堂に会する本日の総会は宮城大会の「総決起集会」とも言うべきものであると考えていますのでよろしく願いいたします。宮城県での全国大会開催は1970年、昭和47年以来の実に46年ぶりの開催となります。この大会に向けて、歴代の会長様を始め、諸先輩の方々には、いち早く準備に着手されるなどしっかりと礎石を築いていただき、諸先輩方の卓越した先見性と判断力、果敢な行動力に支えていただいたお陰であります。また、開催に際しましては様々なご支援を頂戴しておりますことにも厚く感謝申し上げます次第であります。この大会は、東北地区の研究協議会を兼ねての開催ということでありまして、東日本大震災後初となる東北地区での開催となります。

宮城大会のスローガンは“つよく生き抜く！未来を創る希望の教育伊達な国から”，大会コンセプトを“「復興」から「新生」へ～感謝の心と確かな絆を忘れない～”としています。残された期間は5か月となりましたが、これまで仙台市中学校長会との連絡協議会や準備委員会等と回を重ねるごと、熱い思いを共に語り合い、相互の理解と連携を強めながら準備を進めてまいりました。後ほど大会運営委員長である成田中学校の吉

川校長先生からこの宮城大会について詳しくご説明をいただきます。各委員会での準備も最終の段階に入っております。全日中のスリム化により7月の第2回理事会が今年から無くなったことにより、例年より2ヶ月前倒しで進行してまいりまして、年度を挟んでの準備でたいへんなご難儀をおかけしました。これまで鋭意ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。今週、26日の全日中理事会において、立派に完成した運営要項を提示し、宮城大会をご案内してまいります。今後は、全日中事務局のご指導をいただきながら、宮城大会の成功に向け宮城県と仙台市の二つの中学校長会が心をつなぐ絆を深めつつ、さらには、東北地区の校長会との連携を密にしながら準備を進めてまいりますので会員の皆様のさらなるご理解とご協力をお願いいたします。

併せて同時進行で「宮城の中学校70年」記念事業・「記念誌発行」につきましても先生方のご尽力に支えられて進めていただいておりますことにも感謝申し上げます。今後も本会が更なる組織力の強化を図りながら、この難局を乗り切るべく揺るぎない歩みを確実に進めてまいり所存であります。

結びになりますが、宮城県教育委員会並びに各市町村教育委員会のご指導をいただき、併せて仙台市中学校長会、関係諸機関と連携・協力しながら、会員相互が研鑽を深めつつ、学校のトップリーダーとして学校運営に邁進され、宮城の教育の一層の充実発展に貢献されますことを祈念しまして、開会の挨拶といたします。





祝 辞

宮城県教育庁教職員課
小中学校人事専門監
千葉清人様

改めまして、おはようございます。教職員課の千葉でございます。本来ならば、高橋教育長が参りまして御礼の言葉を申し上げるところでございますが、本日、他の公務のため出席できかねます。祝辞を預かってまいりましたので、私より拝読させていただきます。

総会の開会にあたり、一言お祝いを述べさせていただきます。

平成28年度の総会が、県内の中学校の校長先生方が一堂に会し、このように盛大に開催されますことに、心よりお喜び申し上げます。また、各校長先生方、そして宮城県中学校長会におかれましては、生徒及び教職員の安全確保や心のケア、学びの環境の整備等、宮城の教育振興のために先頭に立って御尽力いただいておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

とりわけ、この春ご勇退なされた校長先生方には、長年にわたり本県教育の発展のために御尽力いただきました。改めて御礼申し上げます。皆様のご努力によりまして、大震災から5年が経過し、本県の教育の復興も着実に前進しております。しかしながら、これからが、学校教育にとって大切な時期であると考えております。いじめ・不登校問題や、生徒の心のケア、防災教育の拡充、少子化による学校の統廃合問題等々、課題は山積しております。宮城の教育振興を進めていくために、これまでも増して、教育の現場での推進の先導役を中学校長会に担っていただき、県教育委員会や市町村教育委員会とも連携・協力を深めていくことが必要であると思っております。

さて、今年度中には中教審の答申、小・中学校の学習指導要領が告知される予定となっております。また、宮城県においても、震災からの本県教育の復興と併せて、今後10年間の方向性を示す第2期の「宮城県教育振興基本計画」の今年度中の策定を目指し、県内各地で意見聴取会を開催していくこととしております。このような国・県の教育改革の流れを見据えながら日々の学校運営にあた

っていただくことが重要であると考えております。本日は、この貴重な場で少しお時間をいただき、5点申し上げます。

1つ目は、生徒の「心のケア、いじめ、不登校等」に関する対応についてです。

熊本での大きな地震があった後、地震や被災地のニュースが連日報道されています。被災されている方々へお見舞いの気持ちを表すとともに、東日本大震災の頃のことを思い出すなどして、心が不安定になっている皆さんもおられるのではないかと思います。心のケアについては、これまで以上に配慮を必要とする状況にあります。

また、いじめ、不登校は、皆さんご承知のとおり、本県の喫緊の課題であります。県教育委員会では、これらの課題について児童や保護者への対応と併せて、教職員の悩みに対する助言や学校の課題解決を支援するため、教育庁の内外で組織体制を整備し、学校支援のみならず、必要に応じて家庭への直接的な支援を行うこととしております。特に家庭への支援について、これまで以上に積極的に踏み込んだ対応をしております。これらにより、震災の影響や様々な要因で不登校となり、十分に手当ができなかったという児童生徒、そして保護者へより一層個別的な支援ができる体制を充実していきたいと考えます。

各学校においては、新しい体制を積極的に活用して、中学生の不登校を一人でも少なくして、子どもたちが元気に学校に通えるようになってほしいと思います。

今年度から、各学校では、「いじめ・不登校対策担当者」を位置付けていただきました。また、「防災担当主幹教諭」を「安全担当主幹教諭」と名称を改め、これまでの防災担当としての役割に加え、さらに総合的な学校安全、いじめ、不登校対策等の学地間、地域との連携を推進し、強化する役割を担っていただくことになっております。各学校で策定した「学校いじめ防止基本方針」を基に、さらに組織的で実効性のある取り組みを進められるようお願いいたします。

いじめによって亡くなる子どもや、不登校になる子どもが一人も出ることのないようにする、そのことが我々に求められており、今、不登校となっている子ども全員をサポートしていくこと、これも、今回の体制整備の目的です。学校と行政、教育と福祉の垣根を越えて、困っている子どもと保護者の支えになるように、ぜひこのシステムを活用してまいりたいと考えております。

2つ目は、学力の向上についてです。このこと

は本県の長年の課題であります。全国調査の結果では、算数・数学が未だ全国平均に届いていない現状であります。また、県独自の学力調査でも、基礎・基本の定着に課題が見られる状況です。

県教育委員会といたしましては、一人一人の生徒に基礎・基本の定着や学習習慣の定着、そして教員一人一人の教科指導力の向上に十分力を注いでいかなければならないと考え、「学力向上に関する五つの提言」を示しております。これを踏まえた授業改善を全ての学校に確実に進めるとともに、昨年度配布いたしました学力向上対策「算数・数学ステップアップ5」の学校の実情に合わせた活用をお願いします。

また、先日、文部科学省から、英語教育実施状況調査の結果が公表されましたが、英語力の向上も大きな課題であります。グローバル化が急速に進む中であって、英語によるコミュニケーション能力を確実に養うことについて、今後、重点的に取り組まなければならないと考えております。今後、「みやぎの先生、『授業の技』」の動画配信や「算数・数学ステップアップ5（ファイブ）」事例集もお配りする予定であります。ICTの活用については、気軽に活用できることをお示すために、既にMIYAGI - Style という形でYouTubeや県教育委員会のホームページにも活用例の動画を載せております。様々なツールを活用して、先生方の指導力向上が図られますよう、校長先生方のご指導・ご助言をお願いします。

3つ目は、「健康な体と体力の向上」についてであります。体力・運動能力・肥満や虫歯等々の健康課題がありますが、将来の本県を支える子どもたちが、健康な体と体力を身につけておくことは何より大切であります。宮城県は県民のメタボ体質が問題となっておりますが、中学生の時期に健康面でも体力面でもしっかりとした体づくりを意識させていくことが、必要であると思います。各学校におかれましては、家庭と課題意識を共有し、正しい生活習慣と運動習慣の確立に取り組んでいただきたいと思います。なお、体力向上の優れた実践事例も発信しておりますので、参考に取組まれることを期待します。

4つ目は、「みやぎの志教育」についてであります。

志教育は、震災以前から県教委で提唱してきましたが、東日本大震災を乗り越え、現在では、宮城の将来を支える人を育てる教育活動の中核となっております。志教育の推進指定地区において、校種を越えて小・中・高等学校、特別支援学校や、

地域との連携を図り、地域のよさを生かした人とかかわりや人の役に立つことの実感等、将来の志を高める充実した実践がこれまでも行われてきました。

今年度も新たに指定された推進指定地区において、地域や推進校の特色を生かし、ふるさと宮城の復興や将来の発展に力を発揮する人づくりへと結びつく取組が期待されるところであります。各学校におかれましては、推進指定地区の取組を参考にされ、一層の取組をお願いいたします。

併せて、昨年度に配布しました先人集の授業実践事例紹介リーフレットを参考にしながら、「みやぎの先人集」の朗読DVDや指導資料につきましても、積極的に活用いただきたいと思います。

5つ目は、防災教育と安全管理についてです。

各学校においては、「みやぎの学校安全基本指針」を基に、学校の実情に応じた防災マニュアルの改訂等々を行っていただいております。さらに、今年度は、昨年度の豪雨災害の経験や、4月18日付の通知「内陸活断層による直下型地震への対応について」等の通知を踏まえ、想定外への事態への対応も含め、学校防災マニュアルの学校での更なる見直しを行うとともに、みやぎ防災教育副読本の活用を図り、児童生徒のかけがえない命を守る防災教育の一層の推進をお願いいたします。

以上、5点お話をさせていただきました。

結びになりますが、中学校は子どもたちの今後の人生に大きな影響を与える3年間を過ごす場であり、そして、大部分の生徒は高校に進学していきます。中高の接続、具体的には高校との情報共有は、これまで以上に重要になっております。公立私立を問わず、高校に進学した生徒が成長していくために必要となる情報を、積極的に高校側にお知らせいただくようお願いいたします。

学校経営を推進する校長職は、日々大変な重責ではありますが、校長先生の言葉が生徒たちにとって大きな励みとなるものであり、教職員の士気を高めるものであります。

どうか健康に留意され、宮城の将来を担う子どもたちの健やかな成長のために、これからもリーダーシップを発揮していただきますことを御期待申し上げますとともに、全国中学校長会の御準備に一丸となって取り組まれております宮城県中学校長会の一層の御発展を祈念し、お祝いの挨拶といたします。

本日はまことにおめでとうございました。

宣 言

今日、わが国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

我々は、人間尊重の精神に徹し、自らの責任において全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

宮城県中学校長会は、東日本大震災による被災からの再生を第一義に、これまでの成果の上にたって、当面する教育課題の解決を図り、「社会を生き抜く力」の育成と特色ある学校づくりに努め、県民の信託に応える決意である。

ここに、平成28年度第67回総会に当たり、下記事項を決議し、その実現に期する。

決 議

- 一 人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」を育む教育に努める。
- 一 学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな体の育成に努める。
- 一 現在の教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一 創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会から信頼される、開かれた学校づくりに努める。
- 一 教育活動の活性化を目指し、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備を期する。
- 一 「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」を堅持し、教育水準の維持向上を期する。

◆◆◆◆◆ 新 任 抱 負 ◆◆◆◆◆

水に深さありて

石巻市立河南西中学校長

佐々木 貴 子

「春風や闘志抱きて丘に立つ」—高浜虚子のこの俳句が瞬時に心に浮かんだ4月1日の出会いでした。広々とした水田地帯を見渡す丘の上で、春の風に吹かれながら校舎の玄関前に立つ生徒・職員の皆さんに迎えられ、歓迎の言葉をいただき、石巻市立河南西中学校に着任しました。

始業式・入学式・朝会では姿勢正しく真っ直ぐに前を見つめ整列し、朝は明るい挨拶運動の音が響き、和やかに一生懸命に部活に励む姿が見られます。この伝統を汚してはならないと、校長室の10名の校長先生方のお写真に、背筋を正して思う毎日です。

新学期からの数週間、私はずっとある感覚にとらわれていました。それは情報がないことへの焦りです。組織にとって情報が「血液」とされるなら、まさに体内の血の巡りが悪くなったような・・・それを防ぐには動くしかありません。職員室に行き、教室に行き、学校の近所を訪ね、地域に行き・・・それでももちろん足りるということはありません。また、いつも校長室にいないのでは困るし、校長室でしっかりとやらなければならないことがあり、そのための校長室であるとも思います・・・。

「水に深さありて 大船も浮かぶ」という言葉があります。おそらく、一人校長室に居ながらにして、すべてを掌握できるようにすることこそが校長の要件なのだと思います。自分には、目の前の川の浅瀬の急流で溺れているような問題の対処しきれないかもしれない、その溺れさえも救えるか・・・という不安もあります。それでも何かしら生徒・保護者・地域、そして教育に情熱を傾ける本校の先生方のためになる施策を一つでも実践できればと思っています。伝統に恥じないように!!



生徒の夢実現のために

栗原市立瀬峰中学校長

和久芳昭

4月1日、自治会館にて辞令交付式が行われ、その後瀬峰中学校に赴任しました。

校長室に入り、私を待っていたのは、私の名前で作成されたいくつもの文書でした。それを見て、改めて自分が校長になったことと、同時に校長としての責任のずしんとした重みが一気にのし掛かってきました。その日からしばらくは、職印を押す時など、校長としての重圧を感じながらの毎日となりました。この緊張感は2ヶ月経った今でも続いています。今後も持ち続けなければいけないものと思っています。

瀬峰中学校は、昭和22年に開校し、地域に大事にされてきた伝統ある学校です。それだけに校長として、これまで諸先輩方が築いてきた良き校風を継承し、更に発展させていかなければならないと考えています。また、地域の学校に対する期待は大きく、地域の皆様の思いや願いをしっかり受け止めていかなければならないと思っています。

本校の生徒は、素直で明るく、学習や部活動に生き生きと取り組んでいます。特に部活動には、毎日遅くまで練習に励み、中総体を始めいろいろな大会に向けて頑張っています。私は、入学式で生徒に「中学校は自分の夢や進みたい方向を発見する場。まず、大きな夢を持て。夢は願うことから始まり、夢はすべての人に与えられる。もし、夢が曖昧なものなら夢で終わるが、夢が具体化すれば目標になる。ぜひ、自分の夢や目標を発見し、その実現のために努力してほしい」と話しました。

どの地域でもそうだと思いますが、生徒は地域の将来を担う輝かしい宝です。その生徒たちが夢に向かって頑張っていくのを支えるのは、学校や家庭、地域です。この三者が心を一つにし、手を携えながら生徒たちが自分の夢に近づいていくのを見守っていききたいものです。

私は、4月1日から始まった、校長としての初心を忘れることなく、学校経営に誠実に取り組みたいと思います。そして、夢に向かって成長していく生徒たちを、保護者や地域とともに支え続けていきます。

「見守られながら・・・」

岩沼市立岩沼北中学校長

高橋 勝

4月1日、部活動中のテニス部員、吹奏楽部員、そして教職員に迎えられながら入った校長室。歴代の校長先生方に背中から見守られる自席に着きました。

岩沼北中学校は、創立が昭和37年、「自主」「親愛」「健康」「奉仕」の校訓を具現化するため生徒及び職員が「凡事徹底」を合い言葉に一致邁進しています。開校当初、740名だった生徒数も、学区の変更を経て、今年度は269名となっています。自宅からの距離が2km以上の自転車通学の生徒も5人だけで、ほとんどが徒歩通学です。

4月8日に行われた始業式。あいさつのために生徒の前に立った私に対し、全員のまなざしが私に集まっています。話を目で聞くことのできる生徒であることを実感しました。起立したときはもちろん、座礼もしっかりしています。「この生徒たち」のためにも、より良い学校であらねばならないという思いを強く持ちました。と同時に、一小一中となっている本校の校区の特性を生かし、小中間の連携をさらに強めたいと思います。

また、本校には、前校長先生が示してくださった「グランドデザイン」があります。学校教育目標の達成を目指すべく、四つの校訓について具体的な目標指標が掲げられています。保護者の皆様にも、4月のPTA総会でお知らせしています。そのため、我々教職員も、日々の教育活動に目標意識を持って取り組んでいます。

赴任して2か月、少しずつではありますが、以前は見えなかった良さとともに課題も見えてきました。校長として、課題の改善に取り組むのは当然ですが、今までの伝統で築かれた本校の良さを生かした教育を大事にしたいと思っています。

さて、本校の校歌には、「のびゆく生命、心、希望」の文言が、謳われています。これは、我々教師にも言えます。我々こそ、向上心と希望を持つことが必要です。まさに、生徒とともに、のびゆく教師、一人一人の命を大事に、夢と希望を生徒と語り合える学校づくりに努める所存です。

(今日も歴代の校長先生方に見守られています)



「あいさつと笑顔あふれる学校」

塩竈市立第三中学校長

羽 生 秀 利

今年は、塩竈の地にも、いつもより早く春が訪れ、「咲き匂う 塩竈桜胸にして」と校歌の歌詞にあります。4月に着任した際には、校庭の美しい塩竈桜と、生徒の元気溢れる笑顔の花に迎えられ、感謝と感動で胸がいっぱいになりました。そして、この生徒たちのためにも、良き学校を創ろうと決意を新たにしました。

塩竈市立第三中学校は、塩竈市立でありながら住所が多賀城市にあるという、めずらしい学校です。また、宮城県には「第三中学校」と名の付く中学校は、本校だけになってしまいました。生徒も教職員も、宮城県最後の「第三中学校」に誇りを持っています。かつては各学年8クラスで在校生が1000人を超していた学校も、現在では全校生徒235名、減少の一途をたどっています。しかし、生徒たちは、授業に部活動に生徒会活動など、今まで諸先輩に勝るとも劣らないほどの気概で、学校生活を送っています。

さて、この学校をリードしている、生徒会の今年度の目指す学校は「あいさつ日本一」です。生徒会役員の生徒が、毎朝校門に立ち、登校してくる生徒に笑顔と大きな声であいさつをしています。自分も一緒にあいさつ運動して3日目に、ふと、「そういえば、何をもって日本一なのだろう？」と、生徒に聞いてみました。あいさつの回数？ 声の大きさ？・・・？ 明確な答えは返ってきませんでしたが、この時、「日本一ってなんだろうね」と笑いながら考えている生徒達と、一緒に考える課題ができたことに、ちょっとした嬉しさを感じました。あいさつを始めてから2ヶ月が過ぎましたが、まだ、その答えは見つかっていません。しかし、最初は、はずかしがっていた1年生も、大きな声であいさつができるようになり、毎日すれ違う高校生にも、あいさつが交わせるようになり、地域の方々ともだいぶ知り合いができました。「あいさつ日本一」この答えを見つけるために、3月まで生徒とともにあいさつを続けていこうと思います。

「心と心がつながり、溢れる笑顔と元気なあいさつが飛び交い、三中が地域の幸せスポットになるように」と。

教師としての“志”

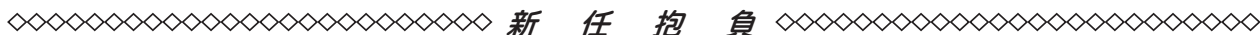
大衡村立大衡中学校長

佐々木 晃

桜の蕾が膨らみ始めた4月1日、私を出迎えてくれたのは応援団の生徒たちでした。振り返った躍動する体の動き、腹の奥底から発せられた伸びのあるエールに鳥肌が立ったのを今でも覚えています（後から知ることになりますが、応援団に入団するためにはオーディションを経なければならず、不合格者が出るなど、大変厳しい選考となっています。）。全校生徒178名、廊下ですれ違う生徒同士が学年問わず挨拶を交わしたり、教師や来校者に対して立ち止まってから挨拶したりするなど、挨拶がしっかりできる生徒が多数います。村に1小学校1中学校の良さと、家庭で大事に育てられている感じが感じられました。また、熊本地震が発生した数日後には、生徒会による募金活動が始まりました。以前被災した自分たちの経験を生かし、社会に貢献しようという気持ちが育っているのだと、非常に頼もしく思った次第です。

さて、先日「東京へ行って、日本一・世界一を体感してこよう」をスローガンに掲げ、修学旅行から帰校した代表生徒の挨拶に次のような一節がありました。「やはり大衡が一番。これからもずっと住んでいたい」と。大衡村は県のほぼ中央に位置し、既に自動車関連の先端企業を誘致するなど、農業と共に工業においても飛躍的な発展を遂げています。今後この大衡を守りさらに発展させるのは、本校生徒が中心となることは間違いありません。グローバル化が加速する社会に適応し、活躍していくための基礎を身に付けさせること、広く社会に出てより多くの人から学ぶための社会性を育てることが今本校に求められる使命であると感じています。

本県の教育施策の大きな柱の1つに「志教育」があります。その推進の核となる教師が、まず確固たる“志”をもたなければならないと思っています。「大衡村に学ぶ子どもたちに、学校は何を為すべきか」という命題に、校長としてしっかりと向き合い、職員と夢や理想を語り合いながら、職員一人一人がそれぞれの志をもって指導に当たれるような学校づくりを進めていきたいと思っています。



感謝の気持ちを忘れずに

石巻市立桃生中学校長

清水 祐子

ご縁があって4月1日、美しい自然に囲まれた桃生中学校に赴任しました。昭和44年の創立以来、「健康」「勉学」「敬愛」を校訓に掲げる伝統ある中学校です。赴任してから2ヶ月の間、大小はありますが日々様々な判断の連続で、校長という職責の重さをひしひしと感じています。また、判断の際には、これまでお世話になった諸先輩方のご指導やご助言が大きな意味を持って思い返され、その有り難さに感謝で胸がいっぱいになります。

さて、桃生中学校では三つの「すてき」が私を迎えてくれました。

一つ目の「すてき」は、明るく純朴でエネルギーに満ちあふれた生徒たちです。毎朝の挨拶運動や授業を見に校舎を回る時が私の至福の時であり、この子供たちのために頑張ろうという意欲が湧いてきます。

二つ目の「すてき」は、先生方の生徒に対する温かいまなざしと教育に対する情熱です。「全ては生徒のために」を合い言葉に職務に励む姿勢は、必ずや生徒の成長を豊かに導くものと信じます。

三つ目の「すてき」は、保護者や地域の方々による力強い支援体制です。「学校は地域という海に浮かぶ船である」と、私が以前お仕えした校長先生がよくおっしゃっていました。地域の方々の力で船は浮かび安全に航行できるといえます。

私はこの三つの「すてき」に感謝しながらしっかりと船の舵取りをして、地域の方々に愛される学校づくりに精一杯努めたいと思います。

毎朝校長室の椅子に座ると、正面から歴代の校長先生方が写真越しに私に語りかけてくるように感じます。「しっかりやれよ」私は「はい。頑張ります」と今日も心の中で誓います。感謝の気持ちとともに。

地域と共に

柴田町立船迫中学校長

山田 幸秀

「おはようございます」毎朝、子どもたちの登校を見守っている安全ボランティアの方々との挨拶から私の1日が始まります。登校してくる中学生はもとより学区の小学生の明るい挨拶にいつも元気をもらっています。

残雪の残る雄大な蔵王連峰を眺め、白石川の桜並木を眺め、ここ柴田町に通勤し、早2ヶ月が過ぎ去ろうとしています。

さて、新任校長として自分には何ができるのだろうか日々校長室で悩んでいました。その時、私の目に入ってきたのは今年度大きく張り出した学校教育目標です。「豊かな情操を持ち、自立的に生きる生徒の育成」校長室を訪ねてくれたある方が、「この教育目標にはこれまでの学校の歴史が刻み込まれているのです。」と教えてくれました。昨年10月に今後10年～20年後には現在の仕事の約半分がコンピュータにとって代わると報道されました。そのような時代、この日本を支えてくれているのはまさに現在の中学生たちです。

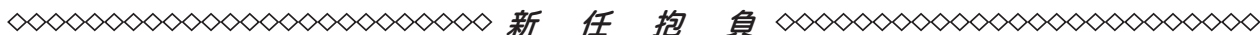
私は未来を力強く生き抜いていくためには以前から「自立」と「協働」が大切ではないかと思っており、本校の教育目標である「自立的に生きる力」を育むことこそが重要と強く感じました。

本校の生徒達を見ていると、いろいろな力を持っている生徒が多くいることを実感しています。

本校の教育愛にあふれている先生方と共に子ども達の力を更に伸ばしていきたいと考えています。この2ヶ月、柴田町教育委員会教育長先生や何事にも相談にのってくれる町内の校長先生方のご指導のもと無事に過ごすことが出来ました。

また、地域の多くの方々からも励ましの言葉をいただいています。このような地域の皆様やボランティアの方々を合わせ（協働）未来ある柴田町の生徒の育成に微力ながら励んでいきたいと思えます。

校長室に掲示してある「因材施教」の教えのもとに。



二ヶ月を経過して

蔵王町立宮中学校長

及川 幸 男

4月1日、辞令交付後、町教委への報告を済ませ、いよいよ宮中学校へ。そして、緊張の中での先生方との対面、着任の挨拶、生徒たちとの出会い……。あれから、早いものでもう2ヶ月が経とうとしています。

2年間学校を離れ、現場では学ぶことのできない貴重な経験をさせていただきましたが、直接子どもたちと触れ合うことがなく、学校独自の季節感というものを忘れかけていた私にとって、2年ぶりに学校現場に戻り、何よりもうれしかったことは、生徒の明るい笑顔や元気なあいさつを身近に感じる事ができたことでした。

この2ヶ月間の中でも、生徒会の活動や行事、部活動など、さまざまな場面で生徒の素直さ、明るさ、頑張りを目にし、生徒のよりよい成長のために、校長として「自分にできることを精一杯行っていこう」という思いを新たにしているところです。

本校では、昨年、「明るい挨拶と大きな返事・人の話をしっかりと聞く・爽やかな服装と身なり・清掃（奉仕）活動に励む・校歌を堂々と歌う」ことができる生徒を「宮中生の5つの基本型」として取り組んでいます。これまでの伝統の上に、新しい伝統を築き上げる取組として、日々の実践とともに生徒自らが誇れるものとしてしっかりと定着させていきたいと考えています。

また、本校には、ふるさと蔵王のよさを学ぶ学習として、「南蔵王縦走」・「スキー教室」・「樹氷を見る会」、修学旅行では「地場製品のPRプロジェクト」を行っており、地域に根ざした教育活動が展開されています。これらの一つ一つの行事を通して、生徒がどのような成長を見せてくれるか楽しみでもあります。

「すべては蔵王町の子どもたちのために」という最初の町校長会でお話された教育長さんの思い、そして、保護者や地域の願いをしっかりと受け止め、教職員一丸となって「優しく 賢く 逞しい」生徒の育成に向けて、微力ながら努力していきたいと思っております。

歴代の校長と共に

角田市立金津中学校長

二階堂 敦 実

4月1日、高まる緊張感の中、赴任先に向かう自分自身は、これから始まる校長としての仕事の段取りのことばかり考え、気持ちに余裕がなくなっていました。しかし、玄関前で歓迎のために集まってくれた生徒と職員の明るい笑顔と元気なあいさつに迎えられて我に返り、落ち着いて校長室に入ることができました。学校の主役は生徒であることを、改めて感じる事となりました。

角田市の東側、山の麓に立つ校舎は緑が美しく、自然豊かな環境にあり、鳥の囀りが聞こえてきます。昭和22年、藤尾村・枝野村組合立金津中学校として開校して以来、地域の願いを集めた学校として教育活動を行ってきました。赴任して早々、区長の皆さんや地域の核として活動している皆さんと交流を持つ機会が数多くあり、その流れを肌で感じ取ることができました。歴代校長先生が長い時間をかけて築いてこられた礎の下に、自分自身の学校経営が行える安心感とその責任の重さを感じないではられません。これまでは、あまり気も留めなかった校長室の写真からは、「金津中学校長の名に恥じぬよう、しっかりと職務に励みなさい。私たちはいつもあなたを見ています。」そんな声が聞こえてきそうです。

学校教育の目的のひとつに「より良い自分を目指して頑張る生徒」を育てることがあると考えています。生徒自身が自分を理解し、どのような自分を目指すのか、そのためにどう頑張ればよいのか、その気づきのために支援を行うのが教師の役割です。教師は深い愛情をもって指導にあたり、個々に合わせた活躍の場を保障することで、信頼に応えていける存在でなければなりません。学校を経営する校長には、職員の状況や特性を理解し、持ち味を発揮できる創造性豊かな教育活動が展開できるよう環境を整えられる手腕が求められるのだと思っています。地域の活力を右手に、創造性豊かな教育活動を左手にして、より良い自分を目指して頑張る生徒を全力で育てていきたいと考えています。そんな生徒たちがまた、次の世代の地域の活力になる日に、歴代の校長と共に思いを馳せて。

◇◇◇◇◇◇◇◇ 新 任 抱 負 ◇◇◇◇◇◇◇◇

「緑の真珠」を探して

気仙沼市立大島中学校長

西 條 裕 哉

赴任して二ヶ月、木々の緑が増し、波間に日の光が散りばめられてくると、爽やかな潮風が気分を高めてくれます。晴天の日、気仙沼本土から大島に向かう時の私の気持ちです。校舎の3階からは、木々の間に閑静な住宅と美しい曲線の砂浜が見え、遠くには金華山が望め、眺望の豊かさを感じさせます。緑を代表する自然は、地域を豊かにし、その恩恵を受けて地域の人たちは大島に暮らしています。

生徒たちはというと、東日本大震災では、学校が避難所となったときの大きな働き手として、避難者の生活を支えていたとのこと。着任披露式では、生徒会長から「自分たちの頑張りや地域に笑顔と元気を」という精神を持っているとの紹介を受けました。5年が過ぎても大島中生の自負として綿々と受け継がれ、この精神を心に灯していくことで頼もしく成長しているのだと感じました。

このような気概を感じる行事に、小中合同運動会があります。フィナーレを飾った島中ソーランは中学3年生が中心となって、小学校5、6年生に教えながら本番に合わせていきます。ソーランの音楽に中学生の太鼓も加え、勇壮で活気に満ちた演技にすっかり引き込まれていきました。周りに目を向けると、まだ教えていない小学校1年生から4年生が、応援席で見様見真似で踊っていました。先輩たちを見ながら、生徒会長の言った精神が、小さくではありながらも小学生の心にも灯っている姿を見ました。

「緑の真珠」とは、郷土の詩人水上不二が作品の中で大島を讃えた言葉です。緑は言うまでもなく大島の豊かな自然を指し、その中で生きる生徒たちの輝く目が、心にともった灯の光が、真珠に思えてなりません。もし、詩人水上不二が、当時の子どもたちから、私と同様の思いで「緑の真珠」と見たのであれば、子どもを育てているのは、豊かな自然を持つ大島という地域に他なりません。

生徒の笑顔と地域の温かさは、何物にも代えがたく、至るところで感じ取ることができます。私は、大島の自然、文化と子どもたちを宝として、日々の教育推進に努めていきます。

編集後記

- 宮城県中学校長会総会において、星 豪 宮城県校長会長は開会のあいさつの中で、今日の総会が昭和40年度以来46年ぶりの宮城県開催となる全日中大会に向けての会員137名全員による総決起集会であると位置づけ、「今、学校教育に求められている事について、全中教育ビジョンを以て、今後重点的に取り組んでいきたい」と話されました。また、高橋 仁宮城県教育委員会教育長は祝辞の中で、「生徒の心のケア・いじめ・不登校への対応」「学力の向上」「健康な体と体力の向上」「志教育の推進」「防災教育と安全管理」の5点について話されました。
- 我々校長は、星会長や高橋教育長の話されたことを着実に推進し、宮城県教育の一層の充実・発展に努めていかなければならないことを共に確認し合う機会となりました。
- 12名の校長先生方から新任校長としての抱負や感想、随想などについて原稿を寄せていただきました。皆さん、校長としての責任の重さに戸惑いながらも、それぞれが理想とする生徒像や教師像、学校像の実現に向けての熱い思いが伝わってくるものでした。
- 何よりも全日中大会の成功に向けて、会員相互の「絆」を確認し合う総会となりました。
- 次号は、「第67回全日中宮城大会」の開催期間中に発行する速報版等をホームページに掲載し、紙媒体による発行は致しませんので、ご了承願います。

平成28年度
宮城県中学校長会事務局

〒981-1224

名取市増田字柳田 230

名取市立増田中学校内

TEL : 022-384-8062

FAX : 022-384-8063

E-mail : miyagi-koc yokai@wine.plala.or.jp

郵便振替 2240-1-41664

事務局員：佐々木 美代子

根本 恭子